

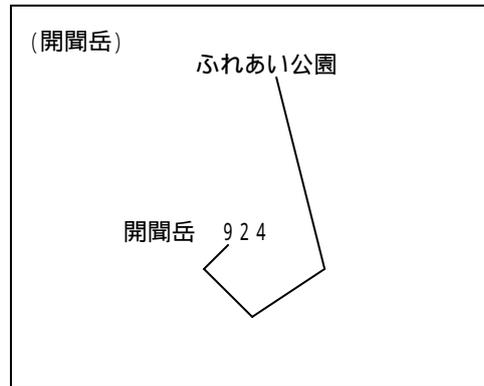
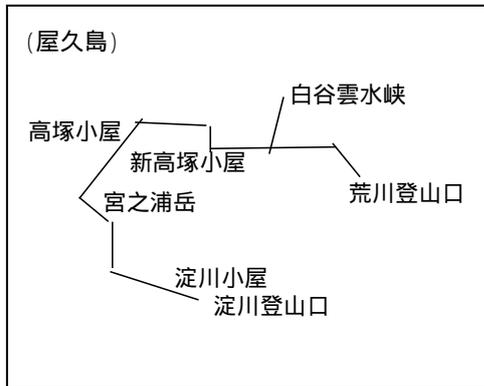
4月度 個人 山行報告書

報告日:4/14 報告者:小久保

山名:屋久島・開聞岳 山行日:2010年4月8日(木)~11日(日)

山行目的:親睦登山(縦走)

参加メンバー:芦田 CL・岸上 SL・飯谷・伊藤(千)・小久保



【行動記録】

< 1日目 4月8日(木)ノセントレア~淀川小屋 >

7:00 セントレア集合(飯谷:バス、その他:岸上車) 8:05 セントレア発 9:25 鹿児島空港着
 10:25 鹿児島空港発 11:00 屋久島空港着 11:10 屋久島空港前発(バス)
 11:25 合同庁舎前着(バス) 11:40~12:30 昼食 12:35~13:00 買い出し
 13:12 合同庁舎前発(バス) 14:10 紀元杉着(バス) 14:30 紀元杉発(徒歩)
 15:00 淀川登山口着(徒歩) 15:15 淀川登山口発(徒歩)
 15:30~15:50 ストックのキャップ探し兼休憩 16:10~16:15 一本
 16:25 淀川小屋着 19:15 就寝

朝7時、山岳部では若手に入る5名の部員がセントレアに集合。内2名が体調不良(飯谷さん・伊藤千さん)特に飯谷さんに関しては参加を迷うほどの絶不調。ザックを預けた後、芦田さんが、持参した高級カメラを床に落としフィルターが破損(空港スタッフに掃除してもらう)。という bad condition な中、我々は町田部長のお膝元・鹿児島へ向かった。乗り継ぎ後に降り立った屋久島空港は、海外の片田舎かと見紛うようなちっぽけな空港であった。ほとんど乗客のいないバスに乗り、合同庁舎前にて下車。ガイドブックで見つけた、種子島を望む海辺にある食事処「屋久どん」にて昼食(伊藤千さんは以前ココに来たことがあるらしい、ということ店内に入ってから思い出していた)。皆、飛魚の定食などを注文する中、顔面蒼白な飯谷さんはうどんを食べて横になっていた。付近のスーパーで食材の足りないものやガスを購入し、再びバスに乗車。一時間ほどくねくねの山道を走って紀元杉に到着(途中、タケノコを手を持ったサルの集団に遭遇)。誰もいない、車も通らないアスファルトの道を、岸上さんの古すぎるギャグを聞きながら30分ほど歩き、淀川登山口に到着。トイレを済ませた後、木製の階段を上っていよいよ森の中へ足を踏み入れた。スタート早々に筆者がストックの先端についているゴムキャップを紛失した為、岸上さんが一緒に探してく

れたのだが、結局見つからず、その間に他のメンバーが「淀川小屋にはネズミがいるらしい」という新情報を下山者からゲットしていた。実質一時間弱の徒歩で、淀川小屋に到着。先客は、単独行の男性一人と女性一人のみで、ゆったりとスペースを確保できた。夕食に、焼きそば・りんご・バナナ・ローズhippティーを頂き、一階と二階に分かれて就寝。

< 2日目 4月9日(金) / 淀川小屋～新高塚小屋 >

4:30 起床 6:20 淀川小屋発 7:10～7:20 一本 7:30～7:40 一本
 7:50～7:55 一本 8:05～8:15 View Point 8:25～8:45 花之江河
 9:05～9:15 一本 9:40～9:50 一本
 本(投石平) 10:35～10:50 一本
 11:30～11:35 栗生岳 / 1867m
 11:50～12:00 宮之浦岳 / 1936m
 12:35～12:45 一本 13:05～13:15
 一本(平石) 15:05 新高塚小屋着
 18:30 就寝



服を何枚も着てシュラフに入って寝たの

に、寒すぎてあまり眠れないまま、朝4時半起床。二階からおりてきた芦田さんが「昨日の夜中、チュウチュウ って聞こえた」と言い出し、ウワサのネズミが出没したことが判明。しかし寝る前に対策を施したのが良かったのか実害はなく、予定通りワカメ入りうどんとニラギョーザを食べた。気温は5℃。小雨も降り、レインウェア着用での出発となった。深い森が傘の役目を果たしてくれているのか雨は特に気にならず、比較的快適に歩くことができた。途中、さまざまな巨岩・奇岩が目を



楽しませてくれる。個人的に特に記憶に残ったのは、登山道の左手に見えていた山頂にある大きな岩で、縦に何本か包丁でカットしたような切れ目がある岩(写真)だった(芦田さんはその岩を“*The Sliced Rock*”と名付けた)。かろうじて出発を決意した飯谷さんであったがやはり体調は完璧ではなく、岸上さんが男魂全開でザックを2人分担ぎ上げ、「薫」という名前のイメージとは程遠いその逞しさに驚愕した筆者であった。とりあえずの目的地である花之江河の手前に“view point”という標柱があったので立ち寄ってみた。背丈ほどの茂みを抜けると広々とした岩

場があり、その上に立って見渡した景色はなんとも開放的であった。体調が芳しくない飯谷さんを

囲みWISHポーズで写真に納まった後、花之江河湿原へ。2600～2800年前にできたとされるこの湿原で、男・岸上はがむしゃらに何かをほおぼっていた。その後ロープが垂れた岩場を通過したりしながら投石平に到着。このあたりはもう少しするとシャクナゲがきれいに咲くエリアのようである。お昼前には「くりお岳(1867m)」と書かれた看板の前で一本。このあたりから筆者の体力の無さが益々浮き彫りになり、だいぶ元気になっていた飯谷さんのザックの代わりに、食材など筆者の荷物を男性2名で一部負担してもらった。宮之浦岳手前で中年ご夫婦とすれ違い(後にこのご夫婦とはウィルソン株の前で再



会する)、頂上ではチリ毛の男性と若い女性のカップルに遭遇した。頂上付近はかなりの強風で天気も悪く、景色が全く見えなかったのが残念(写真)。その後、風で飛ばされそうになりながら藪こぎなるものを経験したが、なんとまた頂上に出てきてしまった。平石という所を過ぎた後、突然我々の前にヤクシカが2頭現れた。おしりの毛が真っ白で非常にかわいい(写真)。もし余裕があれば縄文杉近くの高塚小屋まで行こうという計画だったが、とてもとても行けそうにない(筆者だけ?)ので、手前の新高塚小屋で泊まることに。シチュー・フランスパン・海藻サラダ・パッションフルーツを頂いて就寝。



< 3日目 4月10日(土) 新高塚小屋～指宿 >

4:15 起床	5:35 新高塚小屋発	6:50～7:00 一本(高塚小屋前)
7:05～7:15 縄文杉	8:15～8:25 一本	8:30～9:00 ウィルソン株
9:20 大株歩道入口	10:15～10:25 一本	10:30 登山道入口(楠川分れ)
11:10～11:20 一本	11:40～12:25 太鼓岩	12:50～13:05 一本
14:10 白谷雲水峡発(伊藤千さん・ハス)	15:00 白谷雲水峡(他4名・タシ-)	
16:20 宮之浦港発(トビ-)	18:30 指宿港着	0:30 就寝

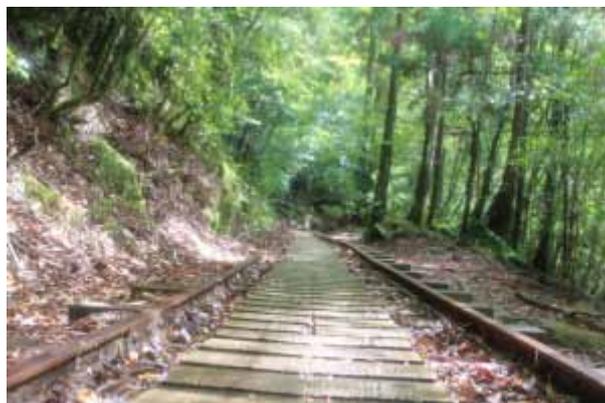
朝起きると、また芦田さんからネズミの報告があった。頭の近くを何度も往復する足音と「チュウ」という声を聞いたと。コップの中にフンも落ちている。そして岸上さんに関しては、顔の上にネズミがポトッと落ちてきてシュラフ上



を疾走。その後大好物のフルーツグラノーラの袋を破られ(写真)、食べ散らかされていたようだ。女性3人はどういうわけか存在に気付かず、飯谷さんがネズミの夢を見たに止まった。朝食はラーメン。岸上さんアドバイスにより水は少なめ(多いと飲むのが大変)。出発後一時間ちょっとで高塚小屋に到着。このあたりで1頭のヤクシカがどんどん我々に近づいてきたが、心を鬼にしてエサはやらなかった。縄文杉(写真)・ウィルソン株あたりから観光客が増えてきて、途中修学旅行生らしきグループなどにたくさん会い、道の譲り合いが繰り返された。大株歩道入り口まで来ると人がうじゃうじゃおり、早く逃げ出したい気分。今では資材運搬用にたまに使われるだけというトロッコ軌道(写真)を、スタンド・パイ・ミーのように延々と歩き、楠川分れへ。ここからは意外にも登りがきつ



く、すぐに暑くなった。荷物番を名乗り出てくれた飯谷さんにザックを預け、太鼓岩へ。天气が悪く美しい景色が全く見えない代わりに、美女がひとり、ガイドさんから説明を受けており、芦田さんの心を潤わしていた。その後もののけ姫ゆかりの森を抜け、幾つかの有名な杉を通ったが、白谷雲水峡から出るバスの時間に間に合わせるため、立ち止まることはほぼなかった。白谷山荘のところで、いままで来た道(楠川歩道)は原生林歩道と分岐しており、我々は原生林歩道(2.8km、あとで判明したコースタイムは150分)を選択。バス出発は70



分後。アップダウンが激しく、何度も川を渡り、いつになってもゴールが見えてこない。ものすごく急がないとバスに間に合わないことが判明し、岸上さんと伊藤千さんが猛ダッシュで先行、あとの3人で追従しようとしたが、すぐに姿が見えなくなった。あとバス乗り場まで700mというところで、無念にも筆者の“電池は切れて”しまった(この時点でバス出発10分前)。目眩がして唇が震え出し、目があまり見えなくなってしまったのだ。気力でもってどうすることもできず、倒れこんでしまった。飯谷さんが先に行った2人に伝えに走ってくれ、戻ってきた岸上さんの背中におぶさった筆者は悔しさと申し訳なさで半泣き状態であった。景色を堪能するはずの白谷雲水峡では、男性2人の肩を借りながら歩き、それを見た外国人観光客(まゝまゝイケメン)が「ネンザデスカ～？ネンザノクスリナラモッテイマスケド～。」と芦田さんに話しかけてきた。かろうじてバスに間に合った伊藤千さんには先に行ってもらい、他の4名はタクシーで宮之浦港に向かった。その車中から見た海の景色がきれいで忘れられないと芦田さんは言っている(残念ながら筆者はうろ覚え)。港で伊藤千さんと合流、高速船(トッピー)で指宿へと向かった。船内ではほとんど皆爆睡、2時間ほどで指宿に到着。レンタカー(車種は岸上さんの粋な計らいでWISH)を借り、指宿いわさきホテルにて宿泊。レンタカー屋のおじさんオススメの「さつま味」という店で夕食。驚異的な回復力を見せた飯谷さんがいい調子で酒をあおり、芦田さんが食べ残したものを男・岸上食べ尽くしていた。宿では砂むし風呂を堪能、明日に備えて皆でコーヒー牛乳を飲んでから就寝。

< 4日目 4月11日(日) 開聞岳～セントレア >

8:45 指宿いわさきホテル発	9:35 ふれあい公園駐車場発	9:45 開聞岳登山口発
10:25～10:35 一本	11:15～11:25 一本(7合目)	11:55～12:05 一本
12:20 山頂着(924m)	12:55 山頂発	14:00～14:10 一本(6合目)
14:20～14:25 5合目	14:55 登山口着	19:35 鹿児島空港発
		20:55 セントレア着

朝、ホテルのバイキングで男・岸上は食べまくり、元気そのもの。再び集合した5人は開聞岳へ出発。公園の広い駐車場で用意を済ませ、登山口までは桜やツツジに囲まれた春らしい道を談笑しながら進む。登山道に入ると急にムシムシしてきて汗が流れる。群青色のムカデみたいな虫が何匹もいて気持ち悪いスポットもあった。またなぜか山道脇にトランク스가落ちており、芦田さんが「いやらしいですねェ～」と言っていた。山道は、赤土のところや、木の根が浮き出ているところ、大きな岩の上を大股で進むところなど、比較的变化に富んだ道で、時折屋久島の雰囲気と似たようなところもあった。また、皇太子殿下が昭和63年に登頂されたらしく、そのとき設置されたと思われる木製の階段が随所に見られ、メンテナンス不足によりシーソー状態になっているものも幾つかあった。5合目付近から頂上にかけて、木の遮りがなくなったときに眼下に広がる景色が本当にすばらしく、海から田んぼから全てがミニチュア王国のようであった。頂上では10名ほどの中年男女がくつろいでいた。突き出た大きな岩にまたがり、下山客に手を振るサングラス姿の伊藤千さんを見ていると、まるで海外にいるような感覚になった。そういえば山頂で50代くらいの奥さんがどこかの宿に電話して「今日泊まりたいんですけどぉ～」と予約していたのがなんだか面白かった。

下りは2時間ほどで、最後はなぜかトレイルランみたいに皆で走って下りてきた。再びレンタカーに乗り、景色のきれいな指宿スカイラインを經由して鹿児島空港へ。岸上さん運転の中、他は全員爆睡しているときもあって申し訳なかったです。空港では大急ぎで食事と買い物を済ませ、無事名古屋へ帰還。登山はしんどかったけど、いろんな意味で充実した4日間でした。メンバーの皆様、多々ご迷惑をお掛けしましたが、本当にありがとうございました。

【リーダー所感】結果的には、全員無事下山。これがリーダーとしては何よりうれしい。体調不良者への対応では慎重な判断ができたが、白谷地区でのルートミスと時間不足で小久保さんを焦らせてしまった点を反省している。岸上さんには、渉外、会計、偵察、おんぶ、運転など、とてもよい働きをしてくれたことに深く感謝する。

